

地域で防ぐ土砂災害

東和中学校1年

須藤僚大 すとうりょうた

「車だ！車を逃せ！」朝四時、近所のおじさんが、さげんだ。目が覚めた私は、何のこ
とを言っているのか頭では理解できなかつた。
しかし、窓ガラスの向こうの景色に、かく然
とした。いつも透明で、きれいにすき通った
川は、茶色くにごり、激しく流れ、とても恐
ろしい状態だった。

令和四年七月十五日からの前線に伴う記録
的な大雨の影響で、私の住む地域は、河川の
はん乱や、土砂災害など大きな被害を受けた。

普段は、おだやかな川だが、川幅が大きく広
がり、川のそばにある家は川の中に見えた。
あの中に入ったらひとたまりもない、と思っ
た。それだけではなく、車を逃した庭も、い
つも走ったりバドミントンをしているうちの
庭も、いつも走ったりバドミントンをしてい
るうちの庭も雨水で地面が見えなくなってい
た。水たまりのレベルではなく、膝まで水が
きて、家の中まで入るのではないかと、恐し
くなった。

しかし、それだけではなかった。雨がやみ川の水も落ちついてきた午後、家族と車で様子を見に行くと、地域の様子は大きく変わった。川の水があふれた道路は泥だらけ、川の中は流木などでぐちゃぐちゃ。通学路には、まだ水があり通行止めだった。私が一番しよげき的だったのは、土砂災害だった。川沿いの道路が土砂でけずられ、真ん中から崩れおちていた。山が崩れ道路をふさいでいた所もあった。それから田んぼや畑にも土砂が入りこんだ。家の中に土砂が入った家もあると、後から聞いた。

実は、この地域は、令和元年の台風十九号の時も大きな被害を受けていて、同じように川がはんらんし、たくさん土砂が流れて、被害があった。前回きれいに直した川なのに、また川はけずられ、土砂がたまってしまった。田畑も土砂でダメになった。父は、五十年に一回が続けて起こるなんて信じられない。と被害を見て言った。私は、ニュースなどで

見たことはあったが、実際に見るのは初めてだった。なので頭の中がこわい気持ちでいっぱいになった。

近年、大雨や土砂災害が多くなっている気がしている。そこで私は、土砂災害について調べてみた。土砂災害は、「土石流災害」「地すべり災害」「がけくずれ災害」「火山災害」の四種類ある。今回は、「土石流災害」で、大雨や地震がきっかけとなり、谷や斜面にたまった土砂が雨による水といっしょに一

5

気に流れ出して起こる災害で、流れの急な河川や扇状地などで発生することが多いのが特徴。ちようだ。人命や家などの財産をうばい、非常におそろしい災害だ。

6

そこで、私は土砂災害を防ぎ命を守るために何をしなければならぬか考えた。私の考える対策は、次の四つだ。

一つ目は、ハザードマップを自分で作ることだ。登米市のハザードマップを見たところ、それは、私が見た状況と大きく違っている。

た。台風十九号の時も、今回の大雨でも危険区域以外の所で民家や田畑にも土砂が流れこんだ。ハザードマップは、細かく新しい情報に変えていかなければならない。このことかろ、人に任せているだけでなく、自分達が正確な地域のハザードマップを作り、それを共有して、助けあうことが必要だと思う。

二つ目は、今回の体験を通して考えたことである。それは、川の状態を整備しておくことだ。今、川には流れてきた石や砂などがた

まっ、て、浅くなっていたり、山がけずられたままになっ、ている所がある。それを工事で直しておかないと、次に同じことが起こった時、より大きな被害につながると思う。

三つ目は、森林を増やして土砂災害を防ぐことだ。調べた時に、土砂を森林がせき止め被害が最小限におさえられたということを知た。だから、植林は、非常に大切だと思った。私の通っていた小学校では、「緑の少年団」という木を植える活動がある。まさにこれは、

土砂災害防止対策だと思った。

四つ目は、私たちが、土砂災害に関する意識を変えることである。まず土砂災害について知り知識を高め、それを活かしながら、この地域全体で団結し、協力し、助け合うことが大切だ。そしてこの経験を様々な人に受けつぎ、みんな考えていくと良いと思った。

私は、この体験を通して土砂災害のことに
ついて今まで以上に考えることができた。自分自身ができることをし、一人一人ができる

10
ことを最大限行い、みんなで土砂災害を防止
でいきたいと思った。